



発行所  
一般財団法人滋賀県遺族会  
滋賀県大津市におの浜4丁目2-34  
滋賀県遺族会館  
電話 (077)522-7227  
FAX (077)522-7233  
発行責任者  
滋賀県遺族会長  
岸田 孝一

# 今日の幸せがいつまでも

## 終戦70周年平和祈念滋賀県戦没者追悼式

終戦70周年平和祈念滋賀県戦没者追悼式が8月26日、800人余の遺族をはじめ、一般・来賓930余人の参列のもと、大津市の滋賀県立体育館で開催されました。

滋賀県遺族会主催

追悼式開始前のビデオによる「戦争証言」の中で、「子どもは真つ白です。教育で、大人のことで、どっちにでもなれるのです。」と

追悼式から、滋賀県主催にかわって2年目となります。

追悼式開始前のビデオによる「戦争証言」の中で、「子どもは真つ白です。教育で、大人のことで、どっちにでもなれるのです。」と



追悼の辞を述べる岸田孝一滋賀県遺族会長

追悼の辞を述べる岸田孝一滋賀県遺族会長

引き続き、西村久子滋賀県議会議長は

「君が代」斉唱から始まり、今までは一味違った生演奏に心を動かされながらの開会となりました。

続いて三日月大造滋賀県知事は「戦没者の無念を察し、残された遺族の筆舌に尽くし難い労苦に思いを馳せ、美しく平和な滋賀をつくり、二度と戦争を起ささないことを誓う」との式辞を述べられました。

次に、戦没者のみならず、戦争で亡くなられた全ての方へ1分間の黙祷を捧げました。

立朝桜中学校2年生の林将央君の「平和メッセージ」として「米原の避難壕・八日市の掩体壕見学

という身近な体験と、同年齢の人たちの疎開の話を読み、今日のは当たり前なことと思っている親と話をすると驚いたことなど、言葉として知っていた戦争の恐ろしさ、悲惨さが初めて真に自分のものとなり、今日の幸せがいつまでも続くように戦争を学び続け、平和に役立つ人になります」と述べられました。

彼のような若い人たちがもつともっとたくさん出てきてく

めることを願わずにはいられません。

この滋賀県主催の追悼式が真に全県民のものとなりますよう、切に願っています。

(総務企画委員会 委員長 三田 俊雄)

# 英霊に届け 平和の灯り

## みたま祭

滋賀県遺族会主催の「第39回みたま祭」が、県内出身戦没者3万4千余柱の英霊が祀られている滋賀県護国神社で、8月13日から3日間の日程で始まりました。

13日、折りからの夕立で、さしもの酷暑も一段落。涼風が木々を吹き抜ける境内で、午後6時30分岸田孝一滋賀県遺族会長が約5200の提灯に点灯。幻想的



5千余の提灯に見入る参拝者の皆さん

な雰囲気包まれた。戦後70年の節目の年、英霊への感謝と未来永劫の平和への思いを込めて、戦没者の名前を探る遺族や家族連れで賑わった。

本殿西翼廊では、県遺族会によるソロモン・フィリピン・ビルマなど、海外戦跡慰霊巡拝、遺骨収集パネル写真展。東翼廊では、華道翠香流社中による「念ずれば花ひらく」をテーマにした生花展。

境内テントには、彦根市遺族会による焼鳥・ビールなどの模擬店があり、今や彦根の夏の風物詩になった「みたま祭」に多くの参拝者が足を止めた。子ども達も金魚すくいに興じていた。

この子たちのためにも、いつまでも平和な日本であって欲しいと願うばかりで

ある。

14日は、終戦70周年記念として滋賀県神道青年会有志による雅楽や舞が演奏された。

15日は、午前11時30分より東京日本武道館の全国戦没者追悼式に合わせ、護国神社でも追悼式が行われ、国・県・市議会議員をはじめ約200人が出席した。

玉串を奉奠し、正午に戦没者へ1分間の黙祷を捧げた。

式典の後、護国神社山本賢司宮司が「軍人軍属をはじめ多くの国民が犠牲になつたのはいたましく、戦没者を慰霊し、平和な世の中になることを祈願する」と述べ、参集殿で「おにぎり味噌汁」が振る舞われ、往時をしのんだ。

岸田会長は、「70年を迎えてもなお、多くの方が訪れたことはそれだけ関心があることだ。忘れられないように続けて行きたい」と語った。

この日は午後6時から、滋賀県戦没者慰霊祭も行われ、「みたま祭」の全日程を終えた。

(広報 原 幸男)

# 青年部が参加協力

第39回みたま祭は、会員の皆様方をはじめ多くの方々のご支援ご協力をいただき、境内に5千余灯の御燈を点し、英霊の御霊をお慰めしました。

初日の13日は、時々雨に見舞われましたが、14・15日の両日は、厳しい暑さでありましたが快晴に恵まれ、来賓をはじめ多くの方々に参拝していただき、成程に参拝さしていただき、事が出ましました。

山本賢司宮司はじめ各委員会、地元遺族会並びにみたま祭担当委員のご協力と英霊のご加護の賜と感謝しお礼申し上げます。

戦後70年となり、あの時の悲惨な思いも年の経過とともに

段々と風化し、戦争を知らない世代の人が8割を超えました。護国神社は何処にあるのか、誰を祀っているのか、どこの国と戦争をしたのか等の問いかけにも答えられない人が多くおられるとのことです。

私たちが、今日このような平和な暮らしが出来るのは、先の大戦で祖国のため家族のためと、尊い命と幸せを犠牲にされた英霊のお陰で、今日の平和を享受していることを忘れてはならないと思えます。

来年はこのようなことも考え、みたま祭を執行させていただきたく思っております。

(祭祀委員会 委員長 川崎和一)



### 第34回慰霊と平和祈願リレー行進



県庁前をリレー行進

## 次世代に継承

戦没者の慰霊と世界恒久平和の願いを込めて毎年実施している「慰霊と平和祈願リレー行進」も、今回で34回になりました。8月6日午前9時、県下各地より参加いただいた120人の遺族会員、大津市遺族会員や市民の皆様と合わせて180人の人達に県庁前に集まりました。

9時30分、県庁前玄関で「出発式並びに手交式」を挙行。三日月大造滋賀県知事、

9時30分、県庁前玄関で「出発式並びに手交式」を挙行。三日月大造滋賀県知事、

地、近江八幡市、東近江市、愛荘町愛知川支所へ向いました。各地庁舎前では、富士谷英正近江八幡市長、小椋正清東近江市長、愛荘町長代理の藤野智誠教育長はじめ、地元選出の県・市・町議会議員、役所職員や地元遺族会員の皆さんに迎えていただきました。

地元市長、代理の方に各支部会長より要望書を朗読、手交の後、各市長、町長より激励の言葉をいただきました。各地訪問の後、彦根駅前より彦根市内を行進午後3時10分護国神社に到着。昇殿前に於いて到着式を挙行しました。

連日の猛暑、特に今年は130年ぶりの猛暑と言われる中、行進ですの大変心配いたしました。誰一人体調を崩すことなく慰霊と平和祈願リレー行進を無事終了することができました。このように多数の皆様に参加いただき成功裡に終了できましたのは、訪問地の市、町役所の関係職員の皆様はじめ支部遺族会役員、関係者の皆様のお陰と心よりお礼申し上げます。

戦後70年、先の大戦で最愛の父や夫、わが子や肉親を亡くした私たちは「世界の恒久平和」を訴え続けて行かなければと思えます。

来年度の「慰霊と平和祈願リレー行進」の訪問地は、草津市、栗東市、野洲市、守山市の予定です。実施日は、8月6日の「広島原爆の日」は土曜日で休日

## 青年部がはじめて参加

私は今回初めて平和祈願リレー行進に参加させていただきました。戦後70年が経過したことは、参加者の高齢化です。私は40歳で一番若かったです。

戦死した祖父の顔を思い出すので、8月9日「長崎原爆の日」の予定です。訪問地の皆様には大変お世話になります。よろしくお願いいたします。

（社会福祉 平和委員会 委員長 森田 久隆）

子どもであった父は覚えていないとのこと。参加者の減少、高齢化が進み、活動に影響するかも知れません。でも、父の世代で途切れることなく続けて行くことだと思います。

しかし、戦争を知らない世代が増えて、戦争を語り伝えて行くことがなければ、近い将来日本も戦争に加担するようになることになりかねません。戦争は恐ろしく、戦争は残酷で、戦争は悲しいことです。そして、戦争は無意味

味であることを、私の世代として私の子供に語り伝えていかなくてはいけないと痛感しました。

今後は、私の父のように、戦争で親の顔を知らない子どもを作らないために、行動しなくては行かない。そして、自分の子供にも、自分の祖父の話を伝えて行きたい。子どもも更に語り継いでいけるように、心から願っています。

（愛荘町遺族会 青年部 東 光行）

平和への享受にお礼  
この度遺児として初めて第53回全国戦没者追悼式に滋賀県代表（81人）として参加させていただきます。

天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、各界の代表を始め全国各地から遺族代表5327人が集い、全国戦没者追悼式が厳かに国歌斉唱、内閣総理大臣式辞、黙禱に続き、天皇陛下のお言葉、来賓・遺族代表追悼の辞と厳粛に執り行われました。

特に今年は、先の大戦が終わり、平和な日本が甦った終戦の日から70年という節目の年であり、祖國の安泰を願い、過酷な状況で戦場に散り、戦禍に倒れ、一身を犠牲にされた英霊の皆様を思い馳せる時、諸英霊の尊い犠牲の上に今日があることを決して忘れることが出来ません。

昭和20年7月10日、私が2歳の時に父がフィリピンに於いて戦死。今を心豊かに無事に暮らし、日々生かされていることの平和への享受に、心からのお礼とご加護に深く感謝の念をもって、御霊に永久安かれと多くの英霊のご冥福を心からお祈りいたしました。

（竜王町 堀井平次郎）

豊かな国永遠に  
8月15日、日本武道館に6500人余の政府関係者、遺児家族が集まりました。私もその一人となり、式典の天皇陛下のお言葉、安倍晋三首相の「明日を生きる世代のために、国の未来を切り開いていく」と、力強い誓いの言葉を聞き、今の豊かな国が長く、ずっと永遠に続くことを願わずにいられません。

今年、戦後70年というところで、新聞・テレビで日本が関わった戦争の実態を多く知ることができ、戦後生まれの私にとって、知らなかったことばかりでした。知ることの楽しさを覚えました。今年こそ、先の大戦を知る元年とし、今のこの気持ちを孫たちを交えて関心を持ち続けて、次の代に送っていきたく心に誓いました。

（甲賀市 吉原よね）

## 全国戦没者追悼式 感想文

去る8月15日の全国戦没者追悼式の大行事に際し、県の役員様方には至れり尽くせりのお世話様になりました。役員様が汗だくになりながら、車内や車外でも特に体の不自由な方等のお世話をされている様子を見て、世話をされている様子を見て、毎年このようにお世話をしてくださっていることに、私にはありがたく感無量でございました。

戦死した兄はたった24歳の命を両親から受け、お国のために働いてくれたのだと涙が止まりませんでした。あつという間に会場もいっばいの遺族の方々が居られ、皆私と同じ想いで参列されたのだ、悲しいのは私一人ではないことを思わせていただきました。

## 平和の存続を切望

戦後70年の節目に、国の求めにに応じた18歳未満の若い「ひ孫」の初めての参列がありました。反面、兄弟姉妹の参列は少なく、私たちが遺児が館内を占めて、世代交代が進みました。

追悼式には、遺族5327人が参列し、開式となりました。天皇皇后両陛下の行幸啓を賜り、天皇陛下の「おこ」とばでは初めて過去を顧

## 不戦を誓う

戦後70年という節目の年とあって、8月15日、日本武道館での全国戦没者追悼式に滋賀県遺族団の一員として参列させていただきました。

式典では、「全国戦没者之霊」に向って天皇皇后両陛下とともに全員で黙禱し、御霊の安らかならんことを祈り不戦を誓った。天皇陛下がお言



# 沖繩戦没者追悼式

## 何不自由ない生活を感謝

終戦70周年の今年、沖繩戦没者の追悼式並びに慰霊祭が、6月7日から2泊3日で沖繩県摩文仁の丘の滋賀県戦没者慰霊碑「近江の塔」と、離島伊計島の二カ所で行われました。

初日に摩文仁の丘の「近江の塔」前で、追悼式と慰霊祭・平和祈念式典が三日月大造滋賀県知事の追悼の辞に続いて、戦没者への呼びかけは近江八幡市の村北勝子さんが、父親への思いと母親が苦勞されたことや、現在は何不自由のない生活を感謝を述べられました。

翌日は、沖繩陸軍病院南風原壕群跡見学と南風原文化センターにおいて、沖繩戦体験者の金城義夫氏の講演がありました。講演の要旨は次の通りです。

大東亜戦争末期の昭和20年、アメリカ軍を主体とする連合軍と日本軍との間で行われた沖繩戦は、第二次世界大戦における日本国内での最大規模の陸戦であり、

が力強く平和宣言をされ、参加者全員が献花をし、摩文仁の丘を後にしました。懇親会では三日月知事を囲んで会食し、遺族会の現況を説明。今後遺族会の活動にご参加いただけるようお願いします。

3月26日から始まり、国内での主要な戦闘は沖繩本島で行われ、沖繩県民の犠牲者は陸軍兵・民間兵また女子衛生要員としてひめゆり学徒隊・白梅学徒隊といった若い女性も大変多く亡くなりました。最後に話をされたのは集団自決の話でした。金城氏は涙ながらに詳細に語られましたが、つらく、悲惨なお話ばかりでした。

野田藤雄滋賀県議会副議長と富田博明滋賀県議会議員から来賓の言葉、我喜屋元四郎伊計島老人クラブ会長から戦争体験のお話をいただきました。

呼びかけは、元沖繩委員会の山川芳志郎氏が「伊計島勇士之塔」の前で、戦死された父親に「母の頑張りのおかげで子どもも大した病氣もせず元気な過ごしています。毎日孫に囲まれて幸せに暮らしています。お父さん、喜んでください」と語られました。

今回の訪問で知った、空襲によって多くの村民の方々の尊い生命が失われたことを決して忘れず、恒久平和を実現させることが私たちに課せられた使命であると考えています。合わせてこのことを次の世代にしっかりと引き継いでいくことを誓いました。

野田藤雄滋賀県議会副議長と富田博明滋賀県議会議員から来賓の言葉、我喜屋元四郎伊計島老人クラブ会長から戦争体験のお話をいただきました。

沖繩「近江の塔」戦没者追悼式に来賓参列の皆さん (敬称略)			
役職	氏名	役職	氏名
滋賀県知事	三日月大造	守山市議会議員	池田 眞二
滋賀県議会議長	西村 久子	滋賀県健康福祉政策課長	鈴野 崇
衆議院議員	武藤 貴也	滋賀県健康福祉政策課参事	大西 良子
滋賀県議会副議長	野田 藤雄	沖繩県知事代理	金城 武
滋賀県議会議員	奥村 芳正	沖繩県議会議長代理	知念 正治
滋賀県議会議員	富田 博明	糸満市長代理	幸池 政行
彦根市長	大久保 貴	沖繩県遺族会連合会会長	照屋 苗子
元滋賀県議会議長	宇賀 武	沖繩県平和祈念財団会長	新垣 雄久

誰しも70年前の、想像を絶する沖繩戦と語り継ぐ、この戦いで犠牲となった人々を慰霊する全国46都道府県の慰霊塔が建立されている摩文仁の丘で行われた沖繩県全戦没者追悼式に、滋賀県遺族会代表として國松善次元滋賀県知事とともに近江八幡市遺族会から役員6人が参加した。



近江八幡市遺族会会長 高木 健三 (滋賀県議会議員)

式典当日の6月23日は、気温33度の高温の中で、糸満市

約2時間の道のりを歩く慰霊大行進では、あの当時の激しい地上戦の中に逃げ回

る人々の苦しい思いを想像し、策である。次世代へ引き継ぐ孫・ひ孫で組織する青年部は全国的に結成が進み、滋賀県でも今年4月に結成された。近江八幡市においても具体的な活動展開を目指さなければと思った。

今回の二度にわたる沖繩訪問は、県議会議員と地元遺族会リーダーを兼ねる立場から、なお一層の奮起を求められた意義ある慰霊の旅となった。

今回の全国戦没者追悼式に参列できましたことは、私の一生の良い思い出になりました。

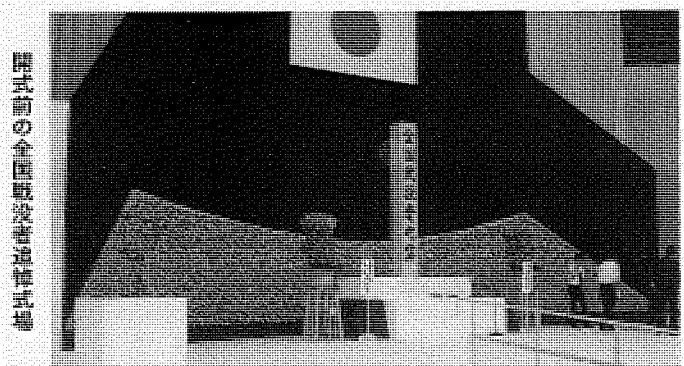
## 意義ある沖繩慰霊の旅

役所から摩文仁の丘平和祈念公園まで約10kmの道のりを行進する沖繩慰霊大行進に参加した後、安倍晋三首相も参列された全戦没者追悼式に臨んだ。

この先立つ6月8日には、滋賀県遺族会主催の沖繩「近江の塔」戦没者追悼式に近江八幡市から8人が参加した。式典には三日月大造滋賀県知事の参列もい

三つ目には、安倍首相の式典参列を聞いたとき、沖繩と同じように滋賀県護国神社に眠られる3万余柱の英霊に対して、滋賀県知事自ら誠意を捧げ、感謝を強く要請しなければならぬと思った。

今回の二度にわたる沖繩訪問は、県議会議員と地元遺族会リーダーを兼ねる立場から、なお一層の奮起を求められた意義ある慰霊の旅となった。



開式前の全国戦没者追悼式会場



平成27年度「終戦70周年記念」滋賀県平和祈念・沖繩戦没者追悼式に参列の皆さん

## 長年の窮乏を

昭和19年6月29日、鹿児島から沖繩に向かっていた輸送船富山丸は、徳之島沖で米潜水艦の魚雷攻撃を受け撃沈されました。火災地獄の中で3700余人が海の藻屑と消え、私の父も71年間海底深く沈んだまま眠っています。

## 平和の尊さ語り伝え

8月15日は、終戦から70周年の節目の年。全国戦没者追悼式には、全国から約5千人の遺族の方々が参列して開式。天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、全員国歌を斉唱。戦没者に対して黙祷を捧げました。

(甲賀市 吉原 茂)



# やいばりなみ

## ユクリ墓地に「説明碑」の献納

彦根市遺族会 高宮支部 北川 國男

私の住む彦根市高宮町には、自治会が管理されている「ユクリ墓地」と称する墓地があります。お墓の数は約800数柱あり、盆・お彼岸・年末年始には多くのご家族がお参りに来られます。

その墓地の入口には、「無量光」と称した戦没者慰霊碑があり、先の戦争で戦死された高宮町の出征兵士180数人の名前が彫られ、またその周囲には日清・日露戦争で戦死された32人の碑が建立されています。

慰霊碑の前方には、東郷平八郎連合艦隊司令長官、乃木希典第三軍司令長官ゆかりの「機械水雷」、入口には直径28cmの「海軍砲弾」が慰霊碑を守るが如く、2個ずつ設けられています。子どもや孫達を伴ってお墓参りに行きますと、「水雷」や「砲弾」について質問されます。日本に



「説明碑」の除幕式

現存するこれらは、「ユクリ墓地」のみであろうと聞き、2年毎にペンキを塗っていますが、日露戦争と言えば110年も昔の事であり、底辺は腐食が進んできました。

去る8月10日、除幕式を行い、「無量光」の前には兵隊さんが欲したであろう日本酒やビール・キャラメル・餅・煙草・果物等をお供えし、周囲には、遺骨収集時(2年前)のパーパアニューギニアの密林での写真を数枚展示しました。赤さびた鉄兜も2



8月11日付中日新聞滋賀版に掲載

## 篤志家による高額寄付

東近江市遺族会 湖東支部長 磯部 武夫

昨年末に山上町の松村達郎氏より話があり、松村氏の昔の上司である西宮市在住の川口善一氏より、東近江市遺族会湖東支部へ寄付のお話がありました。

川口善一氏は下里町生まれで、愛荘町元持町へ養子に行かれ川口姓となり、五個荘町にある近江織物株式会社社長に長く勤務され、専務にもなられたと聞いています。

川口善一氏は昨年末に満100歳を迎えられました。自分は戦争で怪我をして傷痍軍人となって帰ってきて、この歳まで長生きさせてもらったのは、戦争で犠牲になられた皆さんのお陰であるとの思いで、自分の生まれ故郷である遺族会湖東支部に寄付をしたいと申されました。遺族会湖東支部ではありがたく寄付をいただきました。

個、町民が掲げてお見送りした出征旗等を飾り、町内の彦根市議会議員3人も参加くださって、墓地管理委員長の下で厳粛に行ってくださいました。

今年に入って、湖東支部長である私、磯部武夫が2月10日に感謝状を作成し、それを持参し西宮市の「グループホームむろかわ」に入所しておられる川口善一氏を訪問しました。2時間以上もいろいろなお話しをして

いただき、大変元気になりました。お話しをされるので感心しました。

その後、東近江市遺族会湖東支部役員会で何回も相談し、検討した結果、第二・第三学区の忠魂碑には春日灯籠があるので、第一学区の忠魂碑にはないので、寄付の費用で春日灯籠を設置してもらいました。また、第二・第三学区の忠魂碑には花立を設置してもらいました。

また、湖東支部では第一、第二、第三学区ともに仏教会に戦死者の追弔会をしていただいています。その時に川口善一氏のお名前が生花をお供えしようと思っています。

## 平和の鐘 今年も鳴り響く

東近江市遺族会 福島 和彦

今年も私たちの住む小八木町の春日神社では、8月15日正午に「平和の鐘」の音が大きく響き渡りました。

この日、東京の日本武道館では全国戦没者追悼式が行われ、彦根の滋賀県護国神社では県下の遺族や議会関係者が集い、全国戦没者追悼式場から流れる正午の時報を合図に黙祷を捧げていますが、私たちは、地元から全世界に響け！と、「平和の鐘」を打ち鳴らすのです。

昭和52年8月、町内の遺児8人が集まり老朽化していた同神社の屋根修復がおこなわれるのに合わせて、寄進しました。鐘は「平和の鐘」と銘々し、毎年、終戦記念日と除夜の年2回、戦争のない世の中になるようにと願いながら打ち鳴らしてきました。残念にも寄進した仲間のうち3人は他界しましたが、家族が引き継ぎ打ち鳴らしに加わり、今年8月15日には、中村功一元東近江市長も参加していただき、戦後70周年を迎えた記念の年にふさわしい「平和の

## 平和の鐘刻印

由 緒

大東亜戦争ニ依リ父ハ名譽ノ戦死ヲ遂ゲ母ノ手一ツテ育テラレ辛苦ノ道ヲタドレ共遺児デアル吾々一同合計ツテ父ノ追善供養トシテ又鐘ノ音ヲ聞クニツケテ父ヲ追慕シ今日有ル喜ビヲ肝ニ銘ジテ暮シタイト念願スルモノナリ

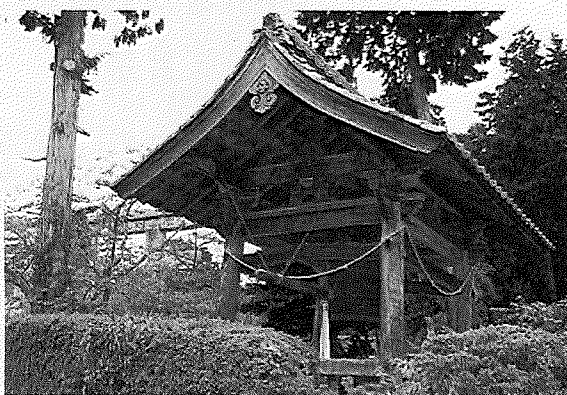
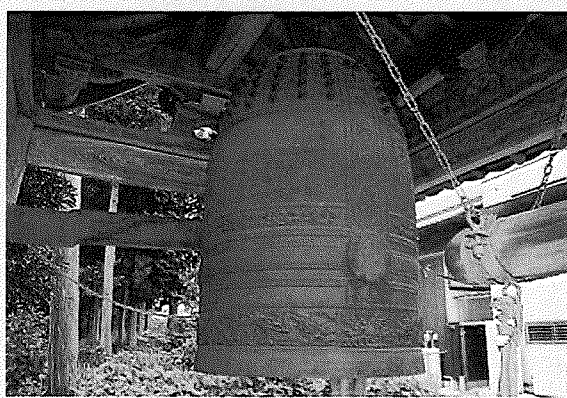
昭和五十二年八月十五日

## 寄進人

- 村川 勇
- 青山 正
- 伊藤幸男
- 夏原菊治
- 白石重一
- 福島和彦
- 上野清史
- 萩泰 遵



忠魂碑に設置した春日灯籠の落慶法要に参列の皆さん



寄進された「平和の鐘」(写真上)と春日神社釣鐘堂(写真下)



被爆(長崎)柿の木二世を平和の広場に

守山市遺族会 会長 山川 芳志郎

今年には戦後70年の節目の年です。廃墟から立派に立ち上がり、平和で豊かな日本を築いてきました。

私は、3歳の時に父が出征。フィリピンレイテ島で昭和20年に戦死しました。以降、父のいない寂しさ、生活の貧しさ、何か芯になるものがない家庭の雰囲気を感じながら歳を重ねてきました。このような不幸なことは二度と繰り返してはなりません。

私は、守山市の遺族会長をあずかっています。節目の年に何か記念事業をしようと考えました。毎年、守山市では8月6日、8時10分から「平和を誓う集い」を平和の広場で開いています。

この広場には、故滋賀大学教授山田良定氏作の「平和の像」と、広島



「平和を誓う集い」で「被爆の柿の木二世」の苗木の説明をする山川芳志郎守山市遺族会長

昭和20年8月9日、長崎に原爆が投下され、あたり一面焼け野原となる。その時、爆心地から900mの若草町で話題の柿の木も被爆。樹木医海老沼正幸氏が被爆後49年を経た危篤状態の柿の木の治療を開始。海老沼氏が母木より種子を取り出し「被爆の木二世」の苗木を育てることに成功。長崎を訪れる子どもたちにこの苗木を渡し、「平和の意味を考えてもらおう活動」を開始。

今回、この「被爆の柿の木二世」を守山市の平和公園に移植し、広島のと並んで平和を誓おうと考えました。宮本和宏守山市長にも賛同いただきました。ただし、8月6日は真夏です。夏の移植は大変難しいので、本格的な植樹は正月を越した冬に行い、今年8月6日は苗木鉢に仮植えした柿の木と面会し、集いを開きたいと思っていました。

7月13日、守山市代表として私が海老沼氏に直接お会いし、お譲りいただきたいことを依頼。7月30日、関係者3人が訪問し苗木鉢に植わった柿の木を山まで持ち帰りました。約800km離れています。朝、守山駅発6時14分。長崎駅着12時。守山駅に帰ったのは23時過ぎでした。とにかく大切な柿の木を痛めず持ち帰ることが何よりの使命。3人のチームワークよく無事守山駅に着きました。

この集いには、市内の小・中学生各校5、10人が出席し、いずれの学校も千羽鶴を折り、献鶴しています。また、代表生徒が作文発表もします。参加者は、市長、副市長、教育長、議長はじめ市議会議員、地元選出の県議会議員、各学校の先生、自治会長はじめ各種団体役員、遺族会員など約300人が出席される大きな集いです。

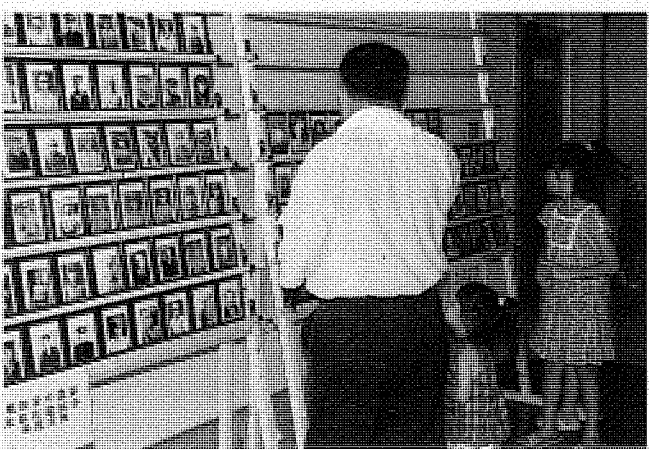
平和祈念式典 過去帳の献納と遺影の展示

米原市遺族会 会長 瀧川 恒雄

8月8日(土) 米原公民館に於いて、戦後70周年を記念して平和祈念式典が開催されました。

この式典に向けて、米原市遺族会としても会員の高齢化に伴い、今しておかなければならないことに取り組みました。まず、昨年度から戦没者と会員の現状を出来る限り正確に、データベース化の作業に取り掛かり、今年度末に完成するように作業を進めております。

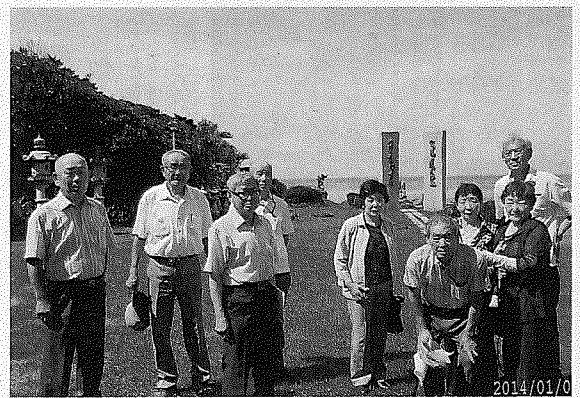
データベース化の作業とともに、戦没者の過去帳の作成に取り掛かり、戦没者名、戦没地と戦没日を筆で書きあげていただき、平和祈念式典に献納でき、英霊の御霊に少しでも感謝の誠が捧げられた思いがしました。



英霊の写真を展示

今後に生かそう 知覧戦跡巡拝

高島市遺族会 鈴木 和子



花瀬望比公園「死生の扉」の前で、参加者の皆さん

7月6日から8日、高島市遺族会の役員9人が、先の大戦終結70年の事業として、鹿児島県知覧町の特攻平和会館を訪問しました。

大東亜戦争末期に、沖縄戦において計画された特別攻撃隊は、特攻という人類史上類のない作戦で、爆弾を抱えた飛行機に片道の燃料で敵艦に体当たり攻撃をしました。しかも、操縦するのは14歳から15歳の少年兵でした。

かつて、旧米原町ではすべての英霊の写真(1版)が旧米原町の慰霊祭に献納されておりました。今一度、この写真を甦らせ式典の目玉にいたす計画を立てましたが、準備期間が短く、取りあえず1版の写真が残っている会員に絞り、写真の募集を始めました。しかし、すでに写真などの遺品をすべて処分してしまった会員が予想以上に多く、今更ながら戦争の風化が進んでいる現状に愕然としました。まだ多くは座敷などに写真が掲げられており、これからは1版に縮小して行く作業に取り組みたいと考えております。

今年度は、遺影を展示できる木製のスタンドを作成して別室において展示しました。今更ながら、一堂に英霊の遺影が並べられると、戦争の悲しみが湧き上がってきて、思わず目頭が熱くなりました。

特攻隊員たちが、二度と帰ることのない「必死」の出撃に臨んで、母のこと、友人のこと、そして故郷のことをどんなに心にかけてながら、与えられた任務を遂行しようと思っただのか、今の私には無念としか思えません。私たちは70年を経た今日、選べる選択肢を記憶されている人々の語りから、考え、主張し、選択し、実行することの大切さを、今後の活動に生かしていかなければならないと考えています。

私自身は、滋賀県遺族会の次世代戦跡訪問事業で引率役員として、数回知覧を訪問していますが、今回は高島市遺族会の大戦終結70年の事業として参加しました。それぞれが思いをもって研修訪問を終えましたが、皆さんにも是非機会を作って、知覧を訪れてくださるようお願いいたします。



町戦没者追悼式に古賀誠氏を迎える

日野町遺族会 会長 瀬川 勲

8月24日、日野町戦没者追悼式並びに講演会が「日野町わたむきホール」で開催されました。今年が戦後70周年となる節目の年で、日野町は戦争を二度と繰り返さず平和な社会を継続するため、平和事業の推進及び平和の啓発を目的として「戦後70周年事業実行委員会」を設置し、反核平和の集い、戦争を語り伝える集い、戦争の記憶展(遺品展)、記念講演会等各種事業を実施しています。



戦没者追悼式で講演する古賀誠日本遺族会名誉顧問

れました。古賀氏は追悼式にも参加され、日野町が主催者となり、毎年盛大に追悼式を挙行していただいていることに日本遺族会としてお礼の言葉を述べられました。講演会で、古賀氏は戦争でお父さんをフィリピンで亡くされた後の苦しい生活経験から、戦争の悲惨さ、平和の大切さを政治活動の基本に据えた活動を一貫して進めておられ、今安全保障政策を巡って危険な方向に向かいつつあるとの危惧を持たれており、平和な日本が続くよう頑張っていくとのお話があり、会場には近隣の市町から遺族会員や元遺族会長等多数の参加をいただき、大変有意義な講演会となりました。

忠魂碑に献花台設置

多賀町遺族会 会長 山本孟増

多賀町は本年、町制60周年の記念すべき年と、終戦70周年です。毎年忠魂碑の清掃時に献花する所がないと話題になっており、町会福祉協議会を通じて町行政にお願いしていただきましたところ、暖かきご理解をいただき、多賀町遺族会と記して設置しました。会員一同喜んで、参拝できる回数も多くなると確信しております。

霊慰霊祭を務めております。日帰りバス旅行で会員親睦も兼ねております。この行事には40人から50人の参加をいただいております。もう60回は超えているそうです。会員から「今年はどこへ行くのや、楽しみにしているデ」と声がかかる季節です。小生、残りの人生健康なら英霊顕彰に捧げたい。戦いはスポーツだけで良い。人と人の殺し合う戦争は、この素晴らしい地球から消えることを切に願います。

多賀町遺族会



多賀町遺族会員の思いが通じ設置された忠魂碑の献花台

愛荘町内3カ所の遺族会慰霊碑追悼法要一斉に

愛荘町 土田 幸夫



殉国碑前で追悼法要に参列の皆さん

8月は慰霊の月。愛荘町遺族会行事、町内3カ所の慰霊碑追悼法要が、8月1日一斉に行われました。秦荘遺族白鳩会でも殉国碑前で、会員40人が出席し黙祷しました。法要に先立ち、遺児で導師の藤岡暁雄さんは次のように話されました。(表白の要旨) この人間世界は闘争の絶えるときがなく、絶えて戦争のなかった時代はありませんでした。その戦争によって、幾千万人の人々がいのちを失い、親を亡くし、子を奪われて、悲嘆にくれた人は、数を知りません。今でも喪った肉親のことを、朝夕思いだし、悲しみを新たにしている人も少なくありません。(中略) 武器を取り聖戦の名の下に、戦場に赴かねばならなかった人たちの悲痛な心を、決して忘れることはできません。しかし、私どもの多くは、そういう犠牲者たちのことを忘れてお

開創1200年の山に参拝

湖南市遺族会 山村 聡

最後に、みんなが平和に暮らせる社会を、実現できますよう(略)と結ばれました。今日の追悼法要を機に、みんなが力強く生活しようと思いに強く、思いを新たにしました。ふと、英霊の声を聞いたような気がし、夏の暑さを忘れたひと時でした。

8月は慰霊の月。愛荘町遺族会行事、町内3カ所の慰霊碑追悼法要が、8月1日一斉に行われました。秦荘遺族白鳩会でも殉国碑前で、会員40人が出席し黙祷しました。法要に先立ち、遺児で導師の藤岡暁雄さんは次のように話されました。(表白の要旨) この人間世界は闘争の絶えるときがなく、絶えて戦争のなかった時代はありませんでした。その戦争によって、幾千万人の人々がいのちを失い、親を亡くし、子を奪われて、悲嘆にくれた人は、数を知りません。今でも喪った肉親のことを、朝夕思いだし、悲しみを新たにしている人も少なくありません。(中略) 武器を取り聖戦の名の下に、戦場に赴かねばならなかった人たちの悲痛な心を、決して忘れることはできません。しかし、私どもの多くは、そういう犠牲者たちのことを忘れてお

何百年もの時代を越えた老杉、参道の両脇の向こうには歴史上の武将の供養塔、各宗派の名僧のお墓、また、あらゆる階層の方々のお墓や20万基ものお墓を目の当たりにしました。大東亜戦争で亡くなられた英霊の方々のお墓には全員でお参りさせていただきました。御廟橋の手前で姿勢を正し一礼をして、弘法大師が現在もなお修業をされているという「奥の院」を参拝しました。その後、僧侶よりご法話を聴聞し、宿坊にてゆっくりと伝統の精進料理を堪能しました。参加者からも「良かった」との喜びの声を聞き、無事参拝の旅を終えることができました。



高野山を参拝した皆さん



# ”平和を願う”世界中の思いひびく

近江八幡市立安土中学校 3年 北島 沙祐紀

学校の授業やテレビの情報から、平和について考えることがあります。ですが、私は「戦争は自分には関係が無いこと」。そう思っていました。そんな中で私の耳に入ったのが「滋賀県遺族会主催次世代戦跡訪問研修」のお話です。沖縄県に行き、沖縄戦について学ぶ事業です。このお話を聞いた時、行きたいと思いました。戦争の状況、当時の方々の思いを感じ、平和について学びたいと思ったからです。

私は、この研修で初めてガマに入りました。ガマに入る時、とても不安な気持ちになりました。戦争当時の状態や、人々の気持ちを想像しながら見学しました。ガイドさんは当時のことをたくさん話してくださいました。そして、電気を全て消す暗闇体験をしました。今までに経験したことがない暗さで、当時の人はこんな暗闇の中で終わりの見えない不安な生活をしていたのかと思うと、胸が痛みました。目では見えませんが、多くの命を感じました。少しでも当時の人の思いを感じられて良い経験だったと思います。このガマという場所は単に暗くてこわいという言葉だけではとめてはいけない場所だと思いました。

また、資料館にも行かせていただきました。資料の中に、壕に隠れている子どもに「俺たちは沖繩を守りに来ているのにこの様は何だ。お前たちも壕を出て傷ついてみる」と当り散らす兵隊もいた、とありました。戦争はこんなにも人の心と体を追い込んでしまうのかと思いました。

生き残った人でも、「ずっと戦争の中にいたので、平和のことがよく分からない。みんな敵に見えてしまうんだ」と言ったそうです。人が信じられなくなってしまうなんて、とても悲しいことです。外は戦場、人は信じられない。この時代を生きた人は何をみて、何を信じて生きていたのでしょうか。人々を変えてしまう戦争。それは二度と起こしてはいけません。

平和な時代に生まれた私たちが実際に見て、聞いて、戦争を学べるのはとても貴重なことであり、ありがたいことです。この経験は私にとって有意義な経験になりました。残された人が平和への思いを今も伝え続けています。他人ごとではないのです。私は、心の底から平和を願うことが一番大切なことだと思っています。すべての人間ができることが平和を願うことだと思うからです。

戦争を起こすのは人間ですが、戦争を止める努力ができるのも人間です。世界中の思いを一つにして、平和な世の中になることを願っています。



## 感激の次世代発表 市平和祈念式



追悼の辞を述べる高木健三近江八幡市遺族会長

8月8日、戦後70年の節目に、第6回近江八幡市平和祈念式が滋賀県立男女参画センター大ホールにおいて、近江八幡市平和祈念実行委員会主催にて二部形式で開催されました。

第一部は、全員で黙祷の後、富士谷英正市長の式辞、高木健三近江八幡市遺族会長の追悼の言葉と続き、来賓の挨拶を滋賀県知事代理、岸田孝一滋賀県遺族会長よりいただきました。献花を市長はじめ市関係役員、近江八幡市遺族会役員の方がされました。続いて、園田新一市議会議長が平和宣言を朗読され、参列者全員で核兵器廃絶平和宣言を唱和しました。

その後、小中学生の皆さんが折られた平和の折鶴を市長、社協会長に献呈されました。これは広島・長崎に送られます。次いで、平和の誓いの作文を小中学生各々2人が発表され、3月の滋賀県遺族会主催次世代戦跡訪問研修に参加された近江八幡

## 近江八幡市遺族会 三上 いろ江

市立安土中学校3年の北島沙祐紀さんは、とても良い経験を出来たといわれました。発表された作文を掲載させていただきました(上記掲載)。戦争の悲惨さ、命の尊さ、平和の大切さを次世代に繋いでいき、戦争を起こすのは人間、戦争を止める努力をできるのも人間等と、この3日

## 戦後70年つなぐ平和への願い

草津市では、戦後70年に当り、平和を語る座談会が行われました。テーマは「戦後70年・つなぐ平和への願い」です。橋川渉市長さんを中心に、ゲストに戦争体験者で特攻生き残りの芝田徳造立命館大学名誉教授をはじめ、PTA代表の清水京香草津市PTA連絡協議会副会長、遺族会代表で私と次世代戦跡訪問研修で

沖繩方面へ参加された松原中学校3年間の奥村水聖さんと吉岡莉穂さん、鹿兒島方面へ参加された高穂中学校1年の柴野恭彦さんの7人での座談会となりました。

先ず橋川市長さんが「人権尊重と恒久平和」の取り組みについて話しをされ、芝田さんが17歳で予科練へ志願して入隊。特攻を目指し訓練中に終戦を迎えたこと。多くの若い仲間たちが人間魚雷「回天」にて特攻で若い命を国のため散華された話をされ、戦争の空しさ、命の尊さを語られました。そして私も芝田さんの話に感銘を受け、次世代に語り継

間は北島さんにとっても有意義な体験であったと、発表されました。会場の皆さんの中には、目頭をハンカチで押さえておられる方もありました。第一部の最後は、「コールジョイ安土」のグループの皆さんが、きれいな声で平和の賛歌を歌われました。

第二部は、平和祈念事業で、近江八幡市に学童疎開を体験された大阪市の樋口良次さんの講演を聞きまし。演題は「終戦70年学童疎開の思い出」です。

ぐこと、今日の平和と繁栄は数多くの尊い命と300万人にも及ぶ英霊の犠牲の礎のもとに戦後の復興が成し遂げられたことを、そして遺族会では後世に語り継ぐために次世代戦跡訪問を重要課題にして、毎年行っていることを話しました。

次世代戦跡訪問研修で沖繩方面に参加された奥村さんと吉岡さん、鹿兒島方面へ参加された柴野さんが戦跡訪問研修の感想を話され、芝田さんの話を聞き、戦争の空しさ、命の尊さを実感し、私たちが後世に語り継ぐ重要性を痛感いたしました。最後に橋川市長さんが市行政として、今後も基本的人権の永久尊重と恒久平和の実現をめざして取り組みを強い思いで話されました。



座談会に参加された前列左から芝田徳造さん、橋川渉草津市長後列左から木村正昭草津市遺族会連合会長、吉岡莉穂さん、奥村水聖さん、柴野恭彦さん、清水京香さん

参加者を募集しています!!

### 小中高生の戦跡訪問研修の旅

～次世代活動委員会事業～

滋賀県から後援をいただいています  
今年から教育委員会からも後援いただきます

#### ◇鹿兒島方面

※知覧特攻平和館・ホテル館など、沖縄戦に特攻隊員として飛び立った兵士の面影を顕彰し、平和について学習します。

\*日 程 平成28年3月27日(日)

～29日(火)

\*募集対象 小5～高3生 40人

\*参加者負担金 15,000円

\*申込締切 平成27年11月30日(月)まで

※県内在住の人ならだれでも参加できます。郡市ごとに定員があります。近隣の遺族会役員または滋賀県遺族会事務局までお尋ね下さい。

(TEL077-522-7227)



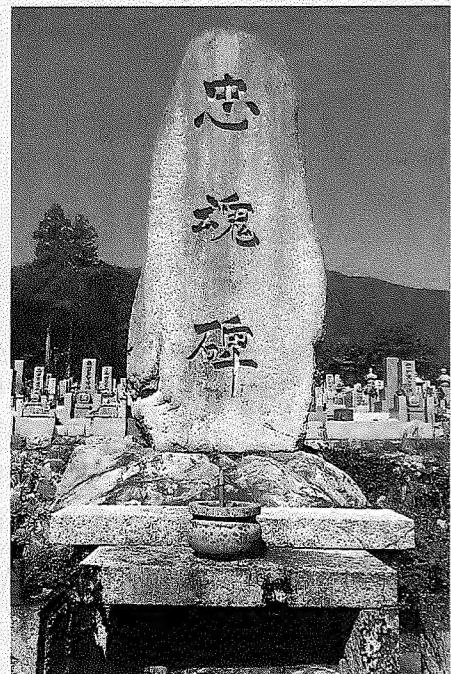
### 秋晴れの下 忠魂碑にお参り

大津市遺族連合会 木戸学区 原田 政子

早いもので、私たち遺児も70歳以上の方が大半を占めています。私たちがとって、あの忌まわしい、悲しい戦争を今日テレビ等で目の当たりにし、悲しい思いを孫やひ孫にしっかりと伝えていかなくてはなりません。

10月5日、滋賀県護国神社で秋季例大祭が行われている日に、お花を供えお参りしました。英霊の御霊が、滋賀県の皆さんと一緒に喜んでいただけたいと思います。

滋賀県遺族会も4月に青年部が結成され、頼もしい限りです。遺族会活動に参加していただき、嬉しく思い感謝しております。



雄々しく聳え立つ木戸学区の忠魂碑

## おかあさんを訪ねて

福永ハナさん (東近江市)

### 酒類販売に生きがい

8月に入格で出征されたのが20年3月。8月に、連日30度は戦死の知らせが入り、「所かまわず大い上のうだるきな声で泣いたのを今も忘れへん」と様な暑さの中、口を結ばれました。

前日にお伺い元々嫁ぎ先が商売をされていて、ごの連絡をさせ両親が南洋方面のフィリピンへ行かれていたというので『南洋』という屋号を付けていたのだと、息子さんの方に聞いてからは『リ

日。本当は幸せな時なのに、甲種合タバコと販売を広げながらお酒の方も



やってみないかと勧められて、「女手ながら近江八幡市の税務署まで何回行ったか分からへん」。今のように車はなく自転車で通い、酒組合の理事長や副理事長の顔をうかがいながら、漸く許可が下り、昭和39年5月から販売するようになったそうです。「只ならぬ苦労が実ったと感激でいっぱいでした」と話してくださいました。

話の最中、和ダンスに入れられた金庫箱から今も大切にされている「酒類販売業免許許可」の通知を見せていただきました。その後は、「火事見舞や、町内では昭和40年から50年代にかけて新築が多く、お酒の需要が増え世間並みの生活が出来たことに感謝している」と話してくださいました。

(東近江市 井ノ口征子)

## 旅のことなら、旅助におまかせください。



長島スパーランドと湯あみの島



2日間フリーバス、湯あみの島無料、夕食バイキング  
ガーデンホテルオリーブ 17,800円より  
(1泊2食・おとな5名1室利用・マイカープラン)

東京ディズニーリゾートへの旅

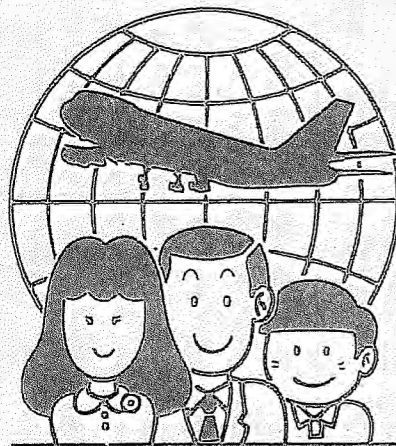


東京ディズニーランド20t h アニバーサリー開催中  
サンルートプラザ東京 33,900円より  
(1泊朝食・おとな4名1室利用・新幹線プラン)

個人から団体旅行なんでも取り扱っております。  
お気軽にご連絡ください。お待ちしております。

滋賀県知事登録旅行業第3-188号  
有限会社 旅助<sup>3</sup>  
〒520-0024 大津市松山町11-20  
TEL: 077-528-2266 FAX: 077-528-2267  
URL: <http://www.tabisuke.co.jp/>  
一般旅行業務取扱主任者: 北川 宏

営業時間のご案内  
平日 9:00~18:00  
土曜 10:00~14:00  
定休日 日曜・祝日



# MEITETSU WORLD TRAVEL INC.

観光庁長官登録旅行業第55号

## 名鉄観光 サービス 株式会社 大津支店

〒520-0056 滋賀県大津市末広町1-1 日本生命大津ビル 2階  
TEL (077) 510-0100 FAX (077) 510-0030  
ホームページ <http://www.mwt.co.jp> E-mail [otsu@mwt.co.jp](mailto:otsu@mwt.co.jp)